

# 宇宙芸術展

## — 宇宙文化の創造 —

人類は宇宙に飛び出してみ、初めて自分が生まれ、生活している地球をその目で見ること、自分たちを客観的に見るようになりました。「宇宙船地球号」という概念の誕生です。

「地球は青かった」  
「そこには国境はなかった」

宇宙に飛び出した人間が、国境のない地球、暗黒の中に青く輝く姿、を目の当たりにし発する言葉の中には、人類全体で共有すべき新たな宇宙観・地球観や、人類の目指すべき方向性についての鍵があるかもしれません。

この様な視点を持ち得た我々人類は、これらをどのように活用し、何を考え、我々の子孫に何を残していくべきでしょうか？

宇宙航空研究開発機構（JAXA）は、宇宙時代における宇宙観・地球観という答えをみつけるために、人類初の国際協力による有人宇宙施設である国際宇宙ステーション（ISS:International Space Station）を利用した文化的活動を考え、推進しています。

本展覧会では、これまでJAXAが取り組んできたさまざまな活動から生まれた作品について紹介いたしますので、是非ご覧下さい。

2006年6月10日sat.~6月30日fri.

オアゾビル 2階 JAXAi

開館時間：10:00-20:00

観 覧：無料

主 催：JAXA/宇宙環境利用センター

JAXAiマンスリートーク：

~宇宙への芸術的アプローチ~

日 時：6月21日wed. 18:30~19:30

解説者：京都市立芸術大学

名誉教授 福嶋 敬恭

聞き手：科学ジャーナリスト 寺門和夫 氏

場 所：JAXA i ミニシアター

JAXAi

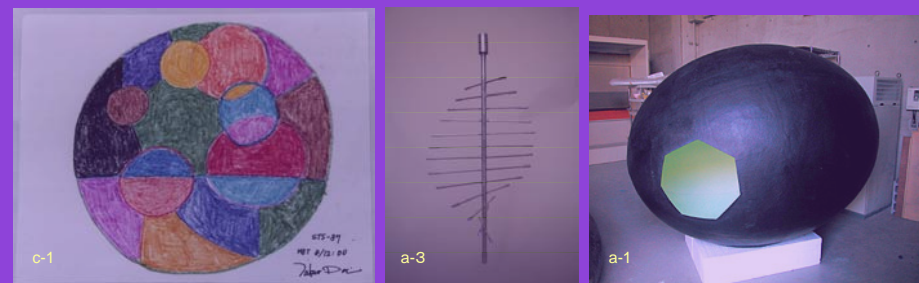
〒100-8260

東京都千代田区丸の内1-6-4

オアゾ ショップ&レストラン2F

TEL 03-6266-6400

JR東京駅丸の内北口より徒歩2分  
東京メトロ丸の内線東京駅に直結  
東京メトロ東西線大手町駅に直結



b-1  
Dancer:  
Muang Kai  
Motoko Hirayama

Special Thanks to :

Artistic Approaches to Space, Group/Kyoto City University of Arts  
Norihiro Hirayama, NIJKOBA/ nijikoba.com  
Noriyasu Fukushima, Kyoto City University of Arts  
Setsuko Ishiguro, Ochanomizu University  
Takuro Osaka, Tsukuba University  
Yuichi Yonebayashi, Tokyo National University of Fine Arts and Music

## 展示作品

### 共同研究成果作品

- ◆ **心の場 (a-1)**  
福嶋敬恭/Noriyasu Fukushima  
京都市立芸術大学「宇宙への芸術的アプローチ」グループ  
宇宙環境において人間の感性の純粋な姿を引き出すために、「心」をテーマとした藝術実験空間を制作しました。
- ◆ **ISS飛行軌道に基づく球体モデル (a-2)**  
米林雄一/Yuichi Yonebayashi  
東京藝術大学「微小重力環境における芸術表現の未来」グループ  
地球の上空400kmを一周90分で周回する国際宇宙ステーションの軌道を立体化し、ブロンズ彫刻にしました。
- ◆ **Cosmic Wind Bell / Spiral Top (a-3)**  
逢坂卓郎/Takuro Osaka  
筑波大学(当時・武蔵野美術大学)  
「アートの効果的活用における試行的プロジェクト」  
鈴を用いて無重力環境で不思議な音を生み出す作品や、宇宙の運動構造の一つである螺旋形をジャイロスコープとLEDで視覚化した。
- ◆ **Sound Wave Sculpture (a-4)**  
同上  
無重量状態において音波で変化する彫刻作品を制作、無重力フライトで再現した。(映像展示)

### 映像作品

- ◆ **飛天 (b-1)**  
石黒節子/Stesuko Ishiguro  
お茶の水女子大学  
敦煌の壁画に残る飛天を無重力フライトで再現し、地球への平和の祈りを表現しました。
- ◆ **若冲幻想 (b-2)**  
平山則廣/Norihiro Hirayama  
七色廣場  
江戸の奇才画家、“伊藤若冲”の作品を、日本人の持つ美意識とテクノロジーにより再構築した詩的映像作品。

### 軌道上作品

- ◆ **宇宙絵画 (c-1)** 土井宇宙飛行士が宇宙で絵画を描きました。
- ◆ **宇宙鶴** 芸術家の地球への平和の願いを野口飛行士が折り鶴で表現。
- ◆ **宇宙手形** ISSでの文化交流を目的に干菓子を用いた茶会を提案しました。
- ◆ **宇宙茶会 (c-2)** 人類の宇宙時代を記録表現するために手形を残しました。

### 学生作品

筑波大学芸術学系 構成課題「無重量環境における遊戯装置」 逢坂卓郎/Takuro Osaka  
重力からの解放により、2次元から3次元へと生活有効空間が広がったときに生活に必要な食器、家具、インテリア、建築、さらにはおもちゃまでもが地上の概念や形状からどのように開放されるか学生が検討しました。

- ◆ **Outermost** 無重力への期待を衣服に表現
- ◆ **宇宙でお茶を** 茶道をどのように実施するのか検討
- ◆ **宇宙湯船** 水の表面張力を活かした無重力ならではのお風呂の形
- ◆ **宇宙de decoration** 無重力で料理の手法はどうか変わるのか検討

## 宇宙藝術への取り組み

JAXAは、ISS・日本実験棟「きぼう」(JEM:Japanese Experiment Module)での活動がはじまるにあたり、人類が宇宙へいくこと、宇宙で長い間生活することに着目し、「きぼう」における文化・人文社会科学的な研究への取り組みを開始しました。

きぼうにおいて、人文社会学的な研究の可能性があるのか、社会学、宗教学、文学など様々な分野の研究者との議論を行いました。また、最近では、「21世紀における宇宙開発・宇宙環境利用の問題」をテーマに、宇宙観、宇宙におけるガバナンスのあり方、宇宙環境における居住可能性について研究を重ねています。(財団法人 国際高等研究所との委託研究等)

さらに、「宇宙環境の本質的な理解」、「宇宙における人間存在の意義」、「宇宙環境の場を利用した科学技術と人文社会科学の新たな“統合”の試み」により、人類が新たな宇宙観・地球観・自然観を共有する契機になることを期待し、創作活動や造形活動などの芸術の視点から、ISSを利用し、宇宙と人間の本質を探ることを目指して様々な共同研究を芸術家等と実施してきました。

微小重力環境における芸術表現の未来(2000~2002年)

東京芸術大学(代表:米林雄一教授)

宇宙への芸術的アプローチ(2001~2003年)

京都市立芸術大学(代表:福嶋敬恭名誉教授)

アートの効果的活用に関する試行的プロジェクト(2002年)

武蔵野美術大学(代表:現・筑波大学 逢坂卓郎教授)

無重量環境における東アジア古代舞踊の試み(2002年)

お茶の水女子大学(代表:石黒節子名誉教授)

スペースダンス ~或る日、宇宙で(2004年)

東京スペースダンス(代表:福原哲郎)(d-1)パネル展示

さらに、近年は、大学等における芸術教育において、宇宙開発がテーマとして取り上げられるようになりました。JAXAは以下2校への授業協力を行うことで、次世代の宇宙芸術を担う若者を育成することを目指しました。

筑波大学 芸術専門学群 通年授業(2004, 2005年) テーマ:無重量環境における遊戯装置  
東洋美術専門学校 ゼミ(2005年) テーマ:宇宙輸送機器デザイン

また、日本人宇宙飛行士が宇宙へいくチャンスを活かし、共同研究から提案されたいくつかの文化的テーマの宇宙実証を試みました。これらの取り組みは、宇宙飛行士が実際に芸術創作を行った点において世界初、地球初であり、日本の独自性あふれる宇宙活動と言えます。

土井隆雄宇宙飛行士の絵画実験(1997年, STS-87) 提案:京都市立芸術大学  
野口聡一宇宙飛行士の宇宙手形/宇宙鶴(2005年, STS-114) 提案:東京芸術大学